

ほっとけやん！

～わかりあうこと・生きること～

「ほっとけやん」とは和歌山弁で「ほうっておけない」という意味です。この理念をもとに障害者が地域の中で学んで育つこと。そして自立することを支援している施設が地元・和歌山にあります。それが「麦の郷」。麦のように強く生きたい。踏まれても起き上がる。そんな活動が続けてきました。「ほっとけやん！」の原動力とは、麦の郷から学ぶ地域づくりとは何か。みんなで一緒に学びませんか。



日時 2010年3月13日(土)
13:00～16:00
会場 和歌山大学生涯学習教育研究
センター(県立図書館東となり)

定員 100名(参加費はもちろん不要)

主催 ひまわりの種(和歌山大学の学生)
後援 社会福祉法人一麦会「麦の郷」

お申込み・お問い合わせ

電話 073-427-4623

Fax 073-427-7616

E-mail himawari_no_tane10@yahoo.co.jp

人数把握のため3月12日までご連絡
下さい。当日参加もできます。
参加申し込みは裏面をご利用下さい。



プログラム

開場 12:30～

■第1部(13:00～14:20)

①「ひまわりの種」がフォーラムへの想いを語る

② 講演

・伊藤 静美さん(麦の郷・理事)

「『ほっとけやん!』を知ってしまった責任
—この子らに地域で生きる場を求めて—」

・雑賀 良彦さん(麦の郷・職員)

■第2部(14:30～16:00)

③ グループ別ディスカッション

④ コメンテーター 山崎由可里

(和歌山大学教育学部教授)



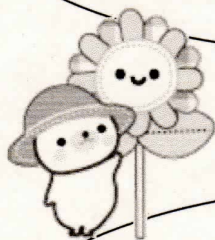
「麦の郷」って…??

麦の郷とは、1977年に設立された障害者の自立支援施設です。和歌山県で初めて重度の障害者を受け入れ、行き場・働く場・生活の場をみんな一緒になって築きあげてきました。ここには、今回のキーワードのひとつである「ほっとけやん!」の精神から、同じ地域に住む人として彼らに手を差し伸べ、麦の郷を作り上げてきました。現在では障害者の方にとどまらず、高齢者介護や引きこもりの人々への支援も行っています。

伊藤 静美

社会福祉法人一麦会理事・麦の郷障害者リハビリテーション研究所所長

「麦の郷」で支援を必要とする人々と共に
「解決に向けて歩む」という実践の先頭に立って活躍してきました。

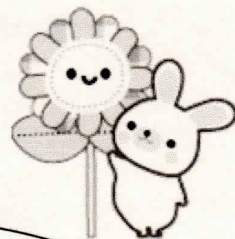


雑賀 良彦

社会福祉法人一麦会ソーシャルファーム
巴木ルに勤務されています。かつては麦の郷の
利用者でもありました。本日の講演タイトルは
「入院生活から地域生活へ」です。

山崎由可里

和歌山大学教育学部教授。教育福祉論、
特別なニーズ教育、障害者問題史をテーマとし
研究を続けています。また、和歌山大学赴任と
同時に障害者青年学級の素晴らしき仲間たち
のスタッフとなりました。趣味は木コとたわむれ
ること。



ひまわりの種

和歌山大学の堀内・村田ゼミの大学生有志によ
って結成。ゼミでは地域づくりを軸とし、その中で
「麦の郷」に出会った。さらに深く人と人の繋がりを
学び、学んだことを発信したいと思い、今回のフォー
ラムを企画しました。

お申し込み票

——— 参加申込書 送信紙 FAX 073-427-7616 ———

① お名前 _____

② 連絡先 _____

③ 備考 _____



E-mail でも(パソコン、携帯電話からでも)お申込み頂けます。その場合は①②③を④記入の上、
himawari_no_tane10@yahoo.co.jp までお願いします。代表者が一括して申し込む場合はお連れ様
が何人いるかを、また特別な配慮を要する方も③にその旨を書いて頂ければさいわいです。